

9月29日発行の前号を17号とお伝えしましたが、前号は16号の誤りでした

おお大勝利

平成28年度山東サッカー一部報第17号(10月18日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権初戦 山形明正に完敗

10月9日(日)第95回全国高校サッカー選手権大会山形県大会2回戦が行われました。山東は県総体ベスト8に与えられるシード校として、8日1回戦は試合免除。1回戦山形明正と新庄北の勝者と対戦することに。山東としては、明正も新北も、どちらも対戦経験のあるチームであり、「未知への恐怖」はありませんでしたが、新北さんには申し訳ありませんが恐らく対戦相手は明正だろうという心の準備はしていました。両校のチーム力という観点もありますが、**どちらかという、明正との因縁から**言っております。だって、Mリーグ・地区総体では対戦致しませんでした。が、昨年の選手権2回戦での対戦に始まり(抽選)、Y2では同ブロックに入り2度対戦(A or Bの1/2の抽選)、地区新人でも同ブロックに入り対戦(1/4の抽選)¹、そして今年の選手権でも2回戦での対戦の可能性が決定(抽選)と、昨年からの強いご縁がありましたから。これも、**明正監督「原先生のご子息2年ベジータ(ベジ)の入学とともに発生した因縁**ということで、「**「原家の因縁」と名付けておきましょう。**果せるかな、1回戦勝利したのは明正。ということで、2年連続の選手権2回戦での親子対決が実現することに。

その昨年の選手権は、0対1のスコアながら、内容的に山東の完敗だった。今年、Y2Bでの二度の対戦では山東が勝ち点6を得たものの、二度目の対戦では薄氷を踏む辛勝であり、地区新人では注1にありますように山東のPK負け、と「今年は山東が力強さを見せた」とも言い難い。そして何より、選手権という高校サッカー界最大の大会で、昨年負けている傷が大きい。ということで、「選手権の借りは選手権でしか返せない」と選手に伝えてありました。

山東などの進学校は、冬の選手権に新チームで臨むため、2年生(のほとんど)にとっては今年が最後の選手権ということになる。そして、今年は！3年生のユートがリーグ戦前期で引退せず選手権まで頑張った(もちろん夏のイベントもすべてこなした)ため、ユートにとってはこれが本当に最後の大会となる。「ユートのためにも絶対勝とう」と気合が入っておりました。

さあ、10月9日。昨夜からの降雨でピッチは濡れているものの、さすが明正の人工芝ピッチ。コンディションは何の問題もなし。そして試合時間にはほぼ雨も止んでおり、絶好の

¹ スコアレスでPK合戦を迎え、19人目くらいまで延々とPK合戦が続いた試合でした。

コンディションと云っていい。多くの保護者の方々、保護者OBOGの方々、後援会からは清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長の「いつもの御三方」と、岸会長が駆けつけて下さった。また現在大学生の若手OBの姿もチラホラ。加えて、最近山形市球技場でナイトゲームをして下さる山形市役所チーム²の方も、応援に来て下さっている。1年バサシことババを応援団長とする山東サッカー一部応援隊³が率いる応援は、本当に力強く、選手を鼓舞してくれる。さあ、あとは選手がピッチで躍動するだけ。

試合が始まると、立ち上がりは一進一退と言ったところ。相手の2年生CBコンビが対人の強さでも読みの良さでも光るものがあるので、アウトサイドの攻略がカギと思っておりましたが、なかなかアウトサイドからの攻撃がうまくいかない⁴。逆に、相手のドリブルに引きずられ、深いところまで攻め込まれることが多い。そして、ドリブルに対して体を入れて奪い切る、奪い切れない時は辛抱強く限定を守る⁵ことができないため、ファールをしたり、ボールをつつくだけの対応で深い位置でのセットプレーをすぐ与えたりする。まず、ファールをしてFKを与え、何でもないボールを2年GKハレルがキャッチしきれず前に落としたところを的確に！ 詰められて、失点。後ろに落とした訳ではないが、キャッチしきれない難しいボールではなかったし、山東とやる時は何がチャンスか相手に熟知されていると感じたGKへの詰めの速さでした。次にCKを与え、蹴られたボールが直接ニアサイドのポストをかすめ、若干軌道が変わり、ゴールイン。CKが直接ファーサイドのゴールに入るならいざ知らず、ニアサイドのポストをかすめてゴールインなんて、これまでのサッカー人生で聞いたことも見たこともない。正直、ベンチで観ていて、何が起こったのか、ハーフタイムに聞くまで理解できませんでした。不運と言えば不運ですが、ポストをかすめる前にGKがキャッチして処理するとか、かすめてゴール方向に向かってくるかもしれないと予測しておくとか、何か出来たはず。そして、極めつけが、同じくCK、前回と違う方向からのCKにて、ニアサイドに飛んだ低いボールに対してクリアしようとしたFPが、GKの「クリアー」という指示を「キーパー」という声と勘違いし、クリアしようとしていた足を引いて、ゴール前にボールを流してしまい、そのボールを詰められて失点。かなり低レベルなプレー3連発で、前半で0対3。FPも良いところなしで、チャンスらしいチャンスを作ることができず。崩されまくった訳ではないにせよ、良い守備を良い攻撃につなげた明正が明らかに1枚上手と感じた前半でした。

ハーフタイム、ひとまず冷静にさせるとともに、こんなんでも終われない、こんなんでもユートの最後の試合にさせない、と鼓舞し合い、後半に送り出す。後半は、明正がペース配分を考えてリードを落ち着いて守り切る作戦に出たこともあり、山東が押し込む時間が長かったが、狭い局面にてドリブルで引っ掛けるシーンが多い。確かに、昨年の秋冬、ずっと、狭

² このチームには、オオツキ君やマサ君と同期のキャプテンのタダが入っています。

³ その日は、バサシに加えて、ミヤガワことカスマサ、カサコーことカサハラ、キクチャンことキクハラの4名体制。

⁴ 明正はもともと攻撃は良かったので、リーグ終盤にかけて守備が安定してきて仕上がってきた印象がありました。

⁵ 「限定を守る」とは、相手の進行方向を限定する角度を守り続け、相手のプレーへの制限に一貫性を持たせる、ということの意味します。その一貫性がないと、限定を信じて反応した味方の期待が裏切られることとなります。しかし「辛抱強く限定を守る」というのは、「単に待つ」ということを意味する訳ではありません。駆け引きを仕掛けて、《攻撃的に守る》ことが重要です。

い局面でもボールを奪われない、ドリブル等で切り抜けるスキルの向上を図ってきて、そうした局面でも果敢に仕掛けるプレーを推奨してきたし、それが今年の Y2B での躍進に確実につながったと言える⁶が、この試合に限っては、**球離れの遅さ（判断の悪さ）**を感じてしまう。少しむきになったのかな。**ベジが左サイドを突破し、角度のないところからシュートを打ったシーンがチャンスと言えれば最もチャンスらしいプレー**で、あとは明正にしっかり守りきられてしまった。結局、スコアはそのままで、**0対3の完敗**。

3年ユートの最後の大会を初戦で終わるのは、断腸の思い。監督として、力不足を詫びるしかない。**試合後そう謝って声をかけると、FWとして仕事ができなかったことに責任を感じてか、逆に私に「すみません、すみません」とむせび泣くユート……。**

ユートはこれで引退。**私が赴任してから初めて「残った」選手であり、サッカー小僧を絵に描いたような選手**でした。ユートのプレーの一つ一つというよりも、**サッカーへの取り組み・情熱・向上心・貪欲さは、後輩の良き手本**でした。ユート、本当にありがとうな。

1・2年諸君はこの悔しい気持ちを次につなげてほしい。それだけ。

次の公式戦は、11月3日、5日、6日に実施される村山地区1年生大会となります。例年県新人が終わってから11月末に実施されていますが、今年は事情により11月頭が空いているので、11月頭に開催。1年生全員で11人いない今年の山東1年生ですが、諦めてはいませんよ～。**現在大学1年生の代のタイチの学年（山東第66回卒）では、9人で初戦突破してますしね（2回戦はモンテユース相手に先制もした⇒結局1対2で逆転負け）。****現在大学5年生の代のタダの学年（山東第62回卒）では、7人で出場し、山南相手に先制した輝かしい過去もあります（結局1対4で負け）。**さて、今年の1年生はどうでしょうか。応援よろしくお願いします。

11月3日 村山地区1年生大会 VS 城北B 11:00～ @山形明正G

それ以降の予定は別紙をご覧ください。

進学校大会 4度目の優勝

選手権の前の週10月1日（土）2日（日）と第7回進学校大会（山交杯／ライザカップ）が開催されました。この大会も早7回目を迎える。思えば、酒東石川先生（故人）や山南良二先生に大会創設を促され、山交観光にカップを作ってもらい、7年前から始めたのでした。感慨深いものがあります。A戦はたいらぐら（坊平）の天然芝ピッチ、B戦は猿倉の天然芝ピッチにて開催。今年は**志田トレーナー（楽トレスペース Green 所属／せりかわ整骨院調整）**が来て下さり、ABの会場にて全チームの怪我人の処置に当たって下さるとともに、A会場では数回全チーム対象のトレーニング講習会を開いて、フィジカルトレーニングを仕切って下さりました。**志田さん、本当にありがとうございました。**Bチームは鶴南との合同チーム。異なるチームが融合し、名前を憶え主張し合いながら試合を進める良い経験となりました。普段「押しの弱い」山東2年ワタルをわざとキャプテンに指名しましたが、しっかり仕切ってくれたのも印象深かった。ともかくも、**鶴南の皆さん、ありがとうございました**

⁶ 正直、私、山東赴任11年目ですが、**今シーズンは秋冬のトレーニングの成果を春以降最も出せたシーズン**でした。

ました。A戦は、最終戦で山南も破り、**4度目の優勝**を手にする。うれしいっちゃうれしいですが、今回の結果よりも**選手権前に各進学校で調整の場として活用し必勝を誓いあった、**ということの方が重要かと思います。進学校の皆さま、お疲れさまでした。保護者の皆さま、遠くまで送迎・応援ありがとうございました。